

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2016年10月25日(火)1限 実施
後期①考査
千葉県立長生高等学校 第3学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問5)に答えよ。(配点 16)

キリスト教は、民族宗教であるユダヤ教を母胎として生まれた宗教である。ユダヤ教は神ヤハウェを世界の創造者、支配者である唯一の神と信じ、ユダヤ人をこの神によって特別な約束が与えられた民とする [1] 思想に立っている。(a)『旧約聖書』には、こうした信仰が、異民族からの圧迫など数々の歴史的苦難の中ではぐくまれていった過程が克明にえがかれている。

[2] を祖とする古代イスラエルの民は、(b)エジプトにおける奴隷状態から脱出することができたとき、それを神ヤハウェによる救済と信じて、この神に対して祭司としてつかえ、神の民となる契約をした。他方、神は指導者モーセを通して神の民にふさわしい生き方の指針を与えたとされるが、それが (c)「十戒」をはじめとする律法(トーラー)である。彼らは、この律法を固く守ることこそ神につかえる道であり、また神からの祝福を得る道であると信じた。この信仰に導かれ、イスラエルの民はカナンの地に定着し国をたてた。

ヤハウェ信仰で結ばれた諸部族からなる古代イスラエルは、紀元前10世紀の (d)ダビデ、ソロモンの時代に強力な中央集権的王国へと発展し繁栄をとげるが、やがて南北への分裂をへて滅亡した。紀元前6世紀の南ユダ王国滅亡の際には、多くの人々がバビロンに連行された。

この間、社会構造の変化や周辺の宗教の影響もあって、ヤハウェ信仰の純粋性がそこなわれる事態がしばしば生じたが、そうしたとき人々にヤハウェ信仰の正しい生き方を説いたのが、イザヤやエレミアなど、神の言葉を伝える一群の [3] たちであった。彼らは、一方では、民族の墮落に対して神の裁きを語って警告し、他方では、外敵による滅亡の危機に対し、神の救済の言葉を語って希望と勇気を与えた。

バビロン捕囚から解放されると、祭司たちの指導のもとでエルサレムを中心に新たに国がつくられたが、そのとき、古代イスラエルの宗教はユダヤ教として確立した。それはエルサレムの神殿を中心とし、モーセの律法を厳格に守ることをその教えの核とするものであった。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [3] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1] [① 多神教 ② 律法
 [③ メシア ④ 選民

[2] [① ヤフェト ② アブラハム
 [③ カイン ④ ユダ

[3] [① 救世主 ② 哲学者
 [③ 預言者 ④ 祭司

問2 文中の下線部(a)に関連して、旧約聖書についての説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。[4]

- ① 旧約聖書はギリシア語で書かれ、後にヘブライ語に翻訳された。
- ② 旧約聖書の最初の五巻はモーセ五書とも呼ばれる律法である。
- ③ ユダヤ教徒は最も古い神との契約として自らの聖書を『旧約』と呼ぶ。
- ④ 旧約聖書はキリスト教には受け入れられたがイスラム教徒は受け入れなかった。

問3 文中の下線部(b)に関連して、下の出エジプトについて説明した文章の中の空欄[5]
～ [6] に入る最も適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ヤコブとその息子たちの子孫はエジプトに住み続けた。ファラオ（パロ）は、増え続けるイスラエルの民を奴隷として重労働を課した。ヘブライ人として生まれながら王妃の養子として育てられたモーセは同胞を迫害するエジプト人を殺害し、その露見を恐れて、南パレスチナのみデアン地方に逃亡、そこで祭司エテロの娘と結婚し、羊飼いとして過ごす。ある日、燃える柴の中に神ヤハウエが現れ、[5]としての使命を与えられたモーセは、エジプトに戻る。ファラオは祭りのためにヘブライ人を荒れ野に連れ出したいというモーセの申し出を拒否し、ヘブライ人への労役を重くした。神はファラオの拒絶ゆえにエジプトに10の災いを与えた。ナイル川が血の色に染まり、蛙、ぶよ、アブが国を襲い、家畜が疫病にかかり、人が腫れ物に悩まされ、雹とイナゴが畑を壊滅させ、3日の間暗闇に覆われ、それでもかたくななファラオに対して、神はエジプトに最後の災厄を与えた。エジプトの初子がすべて、人も獣も疫病によって全滅してしまった。しかし、あらかじめ神の指示通りに小羊の血を入口に塗ったヘブライ人の家だけは災厄は起きずに過ぎ越した。自らも初子を失ったファラオは一度はヘブライ人を去らせることを認めたが、後で心変わりし、軍隊に後を追わせた。葦の海(紅海)の前でエジプトの軍に追いつかれそうになったとき、神は海に道を開き彼らを守った。さらに神はモーセに[6]で十戒と律法を与えた。イスラエルの民は奴隷の身分から解放してくれた神との間に契約を結んだ。

[5] [① 苦しむ同胞の支配者 ② エジプトの処罰
③ 苦しむ同胞の解放者 ④ エジプト人の改宗

[6] [① ホレブ山 ② カナン
③ シオン山 ④ シナイ山

問4 文中の下線部(c)に関連して、十戒の内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 主の名を唱え、神を賛美せよ
- ② 盗んではならない
- ③ 主の日を心にとどめ、これを聖とせよ
- ④ あなたの父母を敬え

問5 文中の下線部(d)に関連して、ダヴィデについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① イスラエル・ユダ複合王国の王になり、南は紅海から北はユーフラテス川に達する大帝
国を建設した。この成功を背景に、〈神の箱(契約の箱)〉をエルサレムに搬入し、イスラ
エルの神ヤハウエが、エルサレムとダヴィデ家を永遠にイスラエルの首都と王家に選ぶ
約束をした、と主張した。この神の約束は〈ダヴィデ契約〉と呼ばれ、のちにダヴィデ
の子孫からメシアが現れるというメシア思想の源泉となった。
- ② 帝国内にはメソポタミアをエジプトとアラビアに結ぶ国際通商路が縦貫していたため、
莫大な関税収益をあげるとともに、エジプトとキリキアとシリアを結ぶ仲介貿易や、フ
ェニキア人の協力を得た紅海貿易にも従事した。アラビア半島南端のシバからは女王(シ
バの女王)が隊商を率いてエルサレムを訪問した。このように活発な商業活動によってダ
ヴィデは巨富を集めた。
- ③ ダヴィデはイスラエル全地を12の行政区に分割して徴税組織を整えただけではなく、
民を強制労働に徴用した。その目的は、とくにエルサレムの宮殿と神殿の建築であった。
このためにも、フェニキア人は技術者を派遣し、レバノンスギを送って協力した。
- ④ サルディスを占領したのち、イオニアのギリシア諸都市を征服した。その後、バビロ
ンに入城し、ダヴィデは西アジア世界を包括する帝国支配者となった。ダヴィデはペル
シア人から〈父〉、ギリシア人から理想の王者とみなされ、またユダヤ人からバビロン捕
囚の解放者として崇められた。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 18)

律法主義に立つ当時のユダヤ教が、神をはるか天上の近寄りがたい存在とみなしていたのに対し、イエスは、神を身近に感じながら、「時は満ち、神の国(神の支配)は近づいた。悔い改めて(a)福音を信じなさい」と語って、福音すなわち神の救いやめぐみが、すでに人々の身近にあると説いたのである。イエスにとって、神は何よりも愛の神であった。彼は、「天の神は悪人にも善人にも太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨をふらせてくださる」と語った。また、放蕩のかぎりをつくし、落ちぶれて帰ってきた息子をやさしくごきかかえる[9]に神をたとえて、神の愛がどんなものであるかを教えた。

そのような神の愛は、アガペーという言葉で表現されるが、それは他者を生かす無差別、無償の愛であり、ギリシア的な、自分に欠けたより価値の高いものをもとめる愛である[10]とは異なる。

神を愛の神としてとらえたイエスは、神から与えられた律法の根本精神を、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、あなたの神である主を愛しなさい」と「隣人を自分のように愛しなさい」という律法の中の二つの言葉によっていいあらわした。つまり、愛によって人間を生かす神が人間に命じるのは、神への愛と(b)隣人愛であるというのである。さらに彼は、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と語って、隣人愛が、せまい仲間内の愛を越えなければならないと説いた。イエスは、「目には目を」の言葉で知られる従来の報復主義の原理に対し、愛の原理を道徳の中心にすえたのである。

もちろん彼は、愛の神について単に言葉で語っただけではない。彼は[11]に病人をいやしたり、軽蔑され差別された徴税人や罪人と食卓をともにするなど、当時のおきてでは許されない行為を通じて、アガペーとよばれる愛がどのようなものであるかを具体的に示した。こうしてイエスは、裁きの神、義の神であると同時に、それ以上に愛の神である神ヤハウェの姿を明確に示したのである。イエスのこのような活動は、ユダヤ教の指導者たちの反感を招くこととなった。律法を字義通り守ることに重点をおく彼らの目には、イエスの新しい教えが、神をけがすものに映ったからである。のみならずイエスは、指導者たちが、律法を守っていない人々を罪人として裁くのをみて、彼らをきびしく批判した。このためイエスはとらえられ、ユダヤ教の指導者とローマの総督[12]に裁かれ、十字架刑で殺された。しかし、処刑後まもなく、(c)ペテロを中心とするイエスの生前の弟子たちの間に、イエスは復活し彼らの前に姿をあらわしたとする復活信仰が生じた。そしてそこからつぎのような信仰が生まれた。イエスは救世主として遣わされた神の子であり、その犠牲的な死によって人々の罪をあがなう業をはたしたのち、神によってよみがえらされた。したがって、[A], と。こうした信仰を核心として(d)キリスト教が成立した。イエス・キリスト、すなわち「イエスは救世主」という呼び名は、この信仰の核心を最も短い言葉で表現している。

問1 文章中の空欄[9]～[12]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [9]

[①	母親	②	父親
	③	兄	④	弟

- [10]

[①	エロース	②	フィリア
	③	ソフィア	④	フロネーシス

- [11] [① 過越の祝日 ② 安息日
 [③ 復活の主日 ④ 日曜日

- [12] [① ユダ ② アンデレ
 [③ ヘロデ ④ ピラトゥス

問2 文中の空欄 [A] に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [13]

- ① このキリストを信じる者は救われ、生まれ変わりの希望にあずかることができる。
- ② このキリストを信じる者は救われ、煉獄から天国に魂が移動する。
- ③ このキリストを信じる者は罪を赦され、新しい生命に生きることができる
- ④ このキリストを信じる者は罪を赦され、すべての苦しみを解決することができる

問3 下線部(a)に関して、福音を意味するギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [14]

- ① εὐαγγέλιον
- ② ἀποκάλυψις
- ③ εὐδαιμονία
- ④ βιβλία

問4 下線部(b)に関して、隣人愛を説明するイエスのたとえ話として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [15]

- ① 迷える子羊のたとえ ② 放蕩息子のたとえ
- ③ 実のならないイチジクの木のとえ ④ 善きサマリア人のたとえ

問5 下線部(c)に関して、イエスの12人の弟子として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 [16]

- ① 徴税人マタイ
- ② イスカリオテのユダ
- ③ 洗礼者ヨハネ
- ④ 熱心党のシモン

問6 下線部(d)に関して、キリストすなわち Χριστός を意味するヘブライ語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [17]

- ① カバラ ② ナビ ③ タルムード ④ メシア

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 16）

イエスの死後、ペテロたちは、エルサレムを中心として宣教活動を展開した。これが原始キリスト教の始まりである。やがてキリスト教は、地中海世界のユダヤ人以外の人々の間にもひろまっていったが、その過程でキリスト教の教義の確立と伝道の両面で大きな働きをしたのが、ユダヤ人パウロである。彼はもともと [18] 派に属し、原始キリスト教会の信徒に対するユダヤ教による迫害の先頭に立っていた。その途中に劇的な回心を体験し、やがて一転してユダヤ人以外の諸民族に対するキリスト教伝道の先頭に立つことになった。

パウロは深刻な罪の意識の苦しみを通して、人間の現実をつぎのように考えた。最初の人間アダム以来、人間は罪のとりこにされており、罪は人間のうちに働いてあらゆるむさぼりを起こさせ、そのため人間は欲望を満足させることによって逆に滅びを招いている、と。この苦しみからの脱却についてユダヤ教が教えたのは、律法の命じるところを厳格に実行することであった。しかしユダヤ教徒としてのパウロが善きおこないにひたすら励んで知ったことは、罪の力に対する自己の無力であった。この苦しみからパウロを解放したのが、イエスの死を [19] の死とみる信仰であった。こうしてパウロは、罪に支配された古い自分からの解放を味わったのである。彼は信仰の核心を「人が義とされるのは、律法のおこないによるのではなく、 [20] による」といいあらわし、神のめぐみを信じる人々は新しい命を約束されると説いた。

地中海世界に浸透したキリスト教は、はじめローマ帝国の迫害の対象となったが、4世紀末には、逆に国教の地位を占めることになった。この間、そしてそれにつづく時代に、教父とよばれる人たちが、ギリシア哲学を用いてキリスト教的真理を説明し、神学（キリスト教教義に関する学問）の確立に貢献した。こうして、(a)三位一体の教義が、このころ確立した。

中でもアウグスティヌスは最大の教父とみなされている。彼は、原罪を負っている人間は、神の [21] によらなければ罪からの救いはおろか善を志すこともできないと説き、この [21] のなかだちをするのが神の地上の代理者としての教会であると説いて、カトリック教会の権威の確立に大きな役割をはたした。彼は信仰の内容を [A] 哲学の考え方を用いていいあらわし、ギリシア的な真理への愛は、キリスト教の教える神に出会うことではじめて満たされると考えた。そして知恵、勇気、節制、正義のギリシアの四元徳のうえに、 [22] の説く信仰、希望、愛のキリスト教の三元徳をおいた。

最大のスコラ哲学者は13世紀に出た (b)トマス・アキナスで、彼は、 [B] 哲学を用いてキリスト教の信仰内容を理性的に説明しようとした。彼にとって、神学は哲学と矛盾するものではなかった。かえってこれを完成するものであった。また彼は、このように神、人間、自然を調和的にみる立場から、人間の理性に啓示された神の法が自然法であるとした。

問1 文章中の空欄 [18] ～ [22] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [18]

[① サドカイ	② ゼーロータイ
	③ パリサイ	④ エッセネ

- [19]

[① 永遠	② 虚偽
	③ 贖罪	④ 復活

- [20] ⎧ ① 希望 ② 愛
 ⎨ ③ 信仰 ④ 従順
- [21] ⎧ ① 意志 ② 予定
 ⎨ ③ 恩寵 ④ 秘跡
- [22] ⎧ ① パウロ ② ペテロ
 ⎨ ③ イエス ④ ヨハネ

問2 下線部(a)に関して、三位一体の教義として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 三位一体とは三つの人格ではなく様式、様態。つまり神のみが唯一の位格であって、父、子、聖霊の区別は様態の見せる現象にすぎない
- ② 父と子と聖霊であることにおいては三つのペルソナをもつが、神である本質においては一つの実体として存在する
- ③ キリストは受肉前は神性と人性の両性を有するが、受肉後は唯一の本性しかもたない、すなわち人性は神性に吸収される
- ④ 子なるキリストが生まれた者ならば、存在の始めと存在しなかったときがあり、しかも子は創造された者であるとして、父なる神と子なるキリストが同質ではありえず、異質的である

問3 文中の空欄 [A] [B] に入る語の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[24]

- ① [A] アリストテレス [B] 新プラトン
- ② [A] アリストテレス [B] アヴェロエス
- ③ [A] アヴェロエス [B] 新プラトン
- ④ [A] アヴェロエス [B] アリストテレス
- ⑤ [A] 新プラトン [B] アヴェロエス
- ⑥ [A] 新プラトン [B] アリストテレス

問4 下線部(b) に関して、トマス・アクィナスの著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① 告白 ② 神学大全 ③ 神の国 ④ 三位一体論

問2 下線部(a)に関して、バラモン教の神の名として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① 帝釈天 ② 恵比寿天 ③ 弁財天 ④ 阿修羅

問3 下線部(b)に関して、次のインドの身分制度に関する文の空欄 [A] ～ [C] に入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[31]

カーストとはポルトガル語で「家柄」「血統」を意味するカスタに由来する語である。インドではカースト集団を「生まれ(を同じくする者の集団)」を意味するジャーティという語で呼んでいる。一方、日本ではカーストというとインド古来の四種姓、すなわち司祭階級バラモン、王侯・武士階級 [A]、庶民(農牧商)階級 [B]、隷属民 [C] の意味に理解されることが多い。インド人はこの種姓をヴァルナと呼んできた。ヴァルナとは本来「色」を意味する語である。アーリヤ人のインド侵入当時、肌の色がそのまま支配者である彼らと被支配者である先住民との区別を示していた。この語に「身分」「階級」の意味が加わり、混血が進み肌の色が身分を示す標識でなくなったあとにおいても、この語は依然としてその意味に使われ続けたのである。

4 ヴァルナのうち上位の3 ヴァルナは再生族と呼ばれ、これに属する男子は10歳前後に入門式(2度目の誕生)を挙げ、アーリヤ社会の一員としてヴェーダの祭りに参加する資格が与えられる。これに対し [C] は入門式を挙げることのできない一生族とされ、再生族から宗教上、社会上、経済上のさまざまな差別を受けた。そして、[C] のさらに下には、4 ヴァルナの枠組みの外におかれた不可触民(今日では指定カースト)が存在した。彼らは「第5 ヴァルナに属する者」とも「ヴァルナを持たない者」とも呼ばれる。なお、時代が下るとともに下位の両ヴァルナと職業の関係に変化が生じ、[B] は商人階級のみを、[C] は農民、牧者、手工業者など生産に従事する大衆を意味するようになる。こうした変化にともない [C] 差別は緩和されたが、不可触民への差別はむしろ強化された。

- ① [A] バイシャ [B] クシャトリヤ [C] シュードラ
② [A] バイシャ [B] シュードラ [C] クシャトリヤ
③ [A] クシャトリヤ [B] バイシャ [C] シュードラ
④ [A] クシャトリヤ [B] シュードラ [C] バイシャ
⑤ [A] シュードラ [B] バイシャ [C] クシャトリヤ
⑥ [A] シュードラ [B] クシャトリヤ [C] バイシャ

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問10）に答えよ。（配点 26）

仏教は、ブッダが菩提樹の下で開いた悟りをもとにして生まれた宗教であり、その教えの中心は、どうすれば人間は [32] から解放されるか、その方法について説くところにある。ブッダがめぐまれた環境にありながら出家せざるをえなかったのも、この [32] からの解放をもとめてであった。

ブッダはまず、現実の人生が、いかに幸福そうにみえても、根本においては苦しみにほかならないというきびしい事実の認識から出発する。すなわち、だれもが老い、病み、死ぬことをまぬがれない。そもそも生まれてきたことそのことが苦しみである。これら生・老・病・死の四苦に加えて、あと (a) 四つの苦しみを加えて八苦という。

わたしたちがこのように苦しみ悩む原因は何なのであろうか。ブッダによれば、それは、(b) 三毒に代表されるような、わたしたち自身が生み出す悪い心の働き、すなわち [33] である。したがって、この [33] の火を消すことによってはじめて、一切の苦しみからの解放が可能となる。しかし、そのためには、(c) この世界をつらぬく法を洞察しなければならない。

ブッダによれば、その法とは、[34] の法であった。すなわち、いかなるものも必ず他のものに縁って成立しているのであって、それ自体で孤立して存在しているものは一つとしてないということ、したがって、この世のすべてのものはたがいに依存しあって成立しているということである。

この [34] の法は、別の形で表現すればつぎのようになる。この世のすべてのものはたえず変化・生滅するということ、すべてのものは、さまざまな原因・条件によって生じたものであって、(d) それ自体で存在している不変の実体は一つもないということである。

にもかかわらず、わたしたちは自分一人で生きているかのように錯覚したり、その自分のままで永遠に生きつづけたいと願ったりしている。この自己へのとらわれ（我執）こそ一切の [33] の根本にあるものである。だからわたしたちは法を洞察し、我執を捨て去るとき、はじめて一切の苦しみから解放されるのである。ブッダは、この煩惱の火が消えた安らぎの境地を、[35] または涅槃寂靜とよび、これは生死を超越した理想の境地であり、人生の最高目的であると説いた。

問1 文章中の空欄 [32] ～ [35] に入れる最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [32]

① 輪廻の反復	② 刹那の快樂
③ 生の無常感	④ 人生の苦しみ

- [33]

① 渴愛	② 無明
③ 煩惱	④ 悶絶

- [34]

① 縁起	② 因縁
③ 応報	④ 無為

- [35] ⎧ ① クンダリーニー ② ニルヴァーナ
 ⎨ ③ タントラ ④ チャクラ

問2 下線部(a)に関して、四つの苦しみとして**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① うらめしく憎い相手に会う苦しみ
- ② 求めるものがえられない苦しみ
- ③ 他者から与えられる苦しみ
- ④ 愛するものとは別れる苦しみ

問3 下線部(b)に関して、三毒の説明としてもっとも**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]

- ① むさぼり・いかり ・あなどり
- ② むさぼり・いかり ・おろか
- ③ いかり ・あなどり・おろか
- ④ むさぼり・あなどり・おろか

問4 下線部(c)に関して、法を意味する語として最も**適当なもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① スートラ ② サティア ③ サンガ ④ ダルマ

問5 下線部(d)に関して、これをあらわす法として最も**適当なもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 諸行無常 ② 一切皆苦 ③ 涅槃寂静 ④ 諸法無我

問6 ブッダがはじめて教えを説いた際に語ったとされている四諦についての説明として最も**適当なもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。(2015年センター本試験) [40]

- ① 苦諦とは、人間は誰しも、苦しみを嫌い楽を求める心をもっているという真理を指す。また集諦とは、そうした思いが積み重なって煩悩が増大するという真理を指す。
- ② 苦諦とは、人間の生の有様は苦しみであるという真理を指す。また、集諦とはそうした現実のゆえに、心の集中が妨げられ悟りが得られないという真理を指す。
- ③ 滅諦とは、あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理を指す。また、道諦とは、そうした道理を心に留めて、禁欲的な苦行を実践すべきであるという真理を指す。
- ④ 滅諦とは、煩悩の滅した安らぎの境地があるという真理を指す。また、道諦とは、そうした境地に至るための、極端に陥ることのない正しい修行法があるという真理を指す。

問7 ブッダがはじめて教えを説いた際に語ったとされている中道についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① 勇気は無謀と臆病の中間的な状態である時はじめて徳として現れるように、人間の行為や感情において、超過と不足を調整すること。
- ② 過不及のない平常の道理で、道理は天に基づいて人間に本性として賦与される。本性に従って喜怒哀楽の中和を得ること。
- ③ 欲楽に耽ることと苦行に努めることを否定し、その中間の道で修行すべきであるということ。
- ④ 主観も客観も、精神も物質も、「一」と「多」を入れ替えつつ、その直後に「無」に肯定されることによって、その矛盾したはたらきを失うことなく自己同一されること。

問8 ブッダがはじめて教えを説いた際に語ったとされている八正道についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[42]

- ① 正思とは、正しい見解のことであり、四諦の一つ一つをよく知ること。
- ② 正語とは、正しい行いのことであり、盗み、殺生、邪淫を否定すること。
- ③ 正精進とは、正しい生活のことであり、法にかなった衣食住を行うこと。
- ④ 正定とは、正しい禅定のことであり、精神統一を正しく行うこと。

問9 慈悲についての説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[43]

- ① 「慈」はサンスクリット語のマイत्रीにあたり、深い慈しみの心をさす。
- ② 生きとし生ける者に愛を与えるのが慈である。
- ③ 「悲」はサンスクリット語のカルナーにあたり、深い憐みの心をさす。
- ④ 生きとし生けるものの不幸を抜き去るのが悲である

問10 古代インドの仏教では食事の作法を含め、様々な規則が定められた。その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2014年センター追再試験)[44]

- ① 在家信者は、不飲酒戒、不殺生戒、不邪淫戒などの五戒を遵守することが求められた。
- ② 五戒の受戒は、ブッダ、仏教の教え、僧侶集団の三者に帰依した出家者のみに許されていた。
- ③ 出家者は、修行に専念するため、在家信者ほど厳しい生活規則は課されなかった。
- ④ 在家信者も出家者も、無所有などの五戒を守ることによって、煩惱から離れることを目指した。

問2 下線部(a)に関して、六波羅蜜の説明として**適当でないもの**を次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 般若経典の中では、六波羅蜜の中でも特に智慧のパラミターの実践が重視され、空の境地に至ることが求められている。
- ② 布施とは、見返りを求めない施しを行うことであり、食欲の気持ちを抑えた恵みを施すことである。
- ③ 忍辱とは、不断の努力のことであり、ひとときも無駄にすることなく日々誠心誠意尽くすことである。
- ④ 禪定とは、特定の対象に心を集中して散乱する心を安定させることであり、冷静に自分自身を見つめることである。

問3 下線部(b)に関して、唯識派思想を継承して玄奘が立宗した宗派として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 成実宗
- ② 華嚴宗
- ③ 法相宗
- ④ 三論宗

これで問題は終わりです。